科目名	動物臨床検査学実習Ⅲ	必修選択	選択	年次	3	担当教員	羽場智子
学科・コース	動物看護科3年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	獣医師（動物病院勤務）						
授業の学習内容	動物病院で愛玩動物看護師として自信をもって働けるよう、様々な臨床検査を正確かつ迅速に行えるようにします。 検査結果の評価を理解し、オーナー様からの質問に的確に答えられるよう知識を習得します。						
到達目標	1.『健康な動物』・『疾病動物』について知ることが出来る 2. 臨床検査について理解し、正確に実施することが出来る 3. 臨床検査結果について理解し、報告書を作成することが出来る 4. 獣医師の指導のもと、オーナー様へ的確な指導をすることが出来る						
評価方法と基準	1. 定期試験：50%（状況によって60%までの変更もありえる） 2. 提出物及び確認テスト：30%（状況によって20%まで変更あり・提出物の内容により5点までの減点） 3. 出席率・授業中の態度＆参加意欲：20% ※オンライン授業等になった場合は、上記以外の変更もありえます。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	犬糸状虫症についての復習とその検査意義を理解する	今までの授業ノート 確認テストの提出
2		講義・実習	飼育動物の犬糸状虫の検査ができる	授業ノート・配布プリントの熟読 確認テストの提出
3		実習	採血に必要な技術・保定・血液処理ができる	今までの授業ノート・配布プリントの熟読 確認テストの提出
4		講義・実習	採血に必要な技術・保定・血液処理できる 血液検査ができる	今までの授業ノート・配布プリントの熟読 確認テストの提出
5		講義	採血に必要な技術・保定・血液処理できる 血液検査ができる	今までの授業ノート・配布プリントの熟読 確認テストの提出
6		実習	採血に必要な技術・保定・血液処理できる 血液検査ができる	今までの授業ノート・配布プリントの熟読 確認テストの提出
7		実習	採血に必要な技術・保定・血液処理できる 血液検査ができる	今までの授業ノート・配布プリントの熟読 確認テストの提出
8		実習	採血に必要な技術・保定・血液処理できる 血液検査ができる	今までの授業ノート・配布プリントの熟読 確認テストの提出
9		講義・実習	FIV FeLVについて検査ができる	動物看護の教科書該当項目の熟読 確認テストにむけての復習
10		講義・実習	ニューメチレンブルー染色について知る	動物看護の教科書該当項目の熟読 確認テストにむけての復習
11		講義・実習	グラム染色について知る	動物看護の教科書該当項目の熟読 確認テストにむけての復習
12		講義・実習	心電図検査について知る・準備や保定ができる	動物看護の教科書該当項目の熟読 確認テストにむけての復習
13		講義・実習	画像診断について理解・説明ができる	動物看護の教科書該当項目の熟読 確認テストにむけての復習
14		試験	定期試験の実施（筆記試験）	試験内容の見直し 分からなかった問題のやり直し
15		実習	振り返り	誤答の再確認 各自、今後の達成に向けて課題を設定する
準備学習　時間外学習			授業ノート・配布プリント・教科書の熟読・確認テストに向けての勉強	

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護の教科書第4巻等該当分野・配布資料・ホワイトボード動物が参加する実習時は身だしなみなど飼育当番と同様とする

科目名	アニマルフィットネスⅠ	必修選択	選択	年次	2・3	担当教員	前島良江
学科・コース	動物看護科3年制（昼二）	授業形態	演習	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	ペットホテル＆クリニックFilou、お台場ドッグリゾート、ドッグトレーニング＆フィットネスALO ANNA代表						
授業の学習内容	犬の行動学から犬の学習方法を学び、フィットネストレーニングを行う際にスムーズに犬を動かすための技術です。トレーニングの必要性や、接客技術の必要性なども合わせて学習していきます。						
到達目標	フィットネスを行うにあたり、トレーニングの必要性、犬の性格の見極め方、トレーニングの進め方を理解できます。トレーニングの構成を組み立てることができます。飼い主様からの聞き取りやコミュニケーションの取り方、を身に着けます。						
評価方法と基準	犬への対応、観察、レポート課題の提出、授業態度、授業内容を理解するためのコミュニケーション50％定期試験50％毎授業の評価の平均＋筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　D59～0）再試験は公欠が、認められたもののみとする。追試験1回						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・実習	フィットネスにトレーニングが必要な理由、クリッカートレーニングの仕組について理解できる。クリッカーの導入と誘導を学習する。	引き渡しの際の飼い主様との会話から聞き出したなどをレポートにし、次回の犬への対応を考える。
2	4月25日	講義・実習	レポート内容の発表と提出。誘導とキャッチングを体験し違いを理解する。	誘導とキャッチングでの犬の反応の違い、感想などのレポートにする
3	5月9日	講義・実習	レポートの提出。ハンドシグナルを学習する。おやつの与え方、誘導の手の使い方を学習する	授業内で学習したこと、感想、次回から行うトレーニングの工程表をレポートにする。
4	5月16日	講義・実習	レポートの提出。本日より全5回で3種の動作を完成させる。	授業の反省点と次回の目標と注意点をレポートにする。
5	5月23日	講義・実習	レポートの提出。プロトコルに沿ってトレーニングを進める。	授業の反省点と次回の目標と注意点をレポートにする。
6	5月30日	講義・実習	レポートの提出。プロトコルに沿ってトレーニングを進める。	授業の反省点と次回の目標と注意点をレポートにする。
7	6月13日	講義・実習	レポートの提出。プロトコルに沿ってトレーニングを進める。	授業の反省点と次回の目標と注意点をレポートにする。
8	6月20日	講義・実習	レポートの提出。完成した内容の発表。小テスト。	全5回を通して感じたこと、反省点、次回からのプロトコルをレポートにする。
9	6月27日	講義・実習	レポートの提出。小テストこたえあわせ。。本日より全5回で新たな動作を完成させる。	授業の反省点と次回の目標と注意点をレポートにする。
10	7月4日	講義・実習	レポートの提出。プロトコルに沿ってトレーニングを進める。	授業の反省点と次回の目標と注意点をレポートにする。
11	7月11日	講義・実習	レポートの提出。プロトコルに沿ってトレーニングを進める。	授業の反省点と次回の目標と注意点をレポートにする。
12	7月18日	講義・実習	レポートの提出。プロトコルに沿ってトレーニングを進める。	授業の反省点と次回の目標と注意点をレポートにする。
13	8月29日	講義・実習	レポートの提出。完成した内容の発表。小テスト。	全5回を通して感じたこと、反省点をレポートみする。
14	9月5日	試験	筆記テスト	試験の予習と対策
15	9月12日	講義・実習	テストの答え合わせ・復習・質疑応答	振り返りを行う
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】